



感謝

熊本県 認定こども園シオン 高木 幸乃

私は、小学三年の時、友人が珠算教室に通っていたことがきっかけで、そろばんを習い始めました。始めた頃は、上手くできずに泣いてばかりでした。

習い始めて三年が経った頃、通っていた教室が閉鎖することになりました。ちょうど中学に入学する時で、続けるか辞めるか迷っていたところ、中学からバスで通える教室があると母親が教えてくれました。学校から出て左右どちらの教室に行くか考え、左方面の教室を選んだ私は、今もその教室でお世話になっています。

入塾した頃は、雰囲気馴染めなかった自分がいました。その姿を見た先生は、夏にお楽しみ会、冬にクリスマス会を開いてくださり、楽しめる機会を設けてくださいました。教室にも慣れてきた頃、高校は情報ビジネス科に入りました。パソコン、簿記、珠算、電卓など沢山の勉強に取り組んできました。当時、私が珠算をしていることを知った情報科の先生から「大会に出てみないか」と誘われ、電卓・珠算競技大会に出場させていただき、三年の時に暗算で一位、その他の競技も入賞することができました。私にとって、とても良い経験となりました。その後、保育士になるため、専門学校に通い始めました。様々な勉強をしながら、日々練習に取り組みました。今振り返ると、高校、専門学校、就職とどれも珠算を長年続けてきたことを認めてもらい、進めたところばかりです。成人祝いには、ワンタッチそろばんを先生からいただき、一生の宝物となっています。

社会人となってからは、私の珠算生活が勢いを増しました。毎朝早起きをし、練習してから仕事に行くことが日課となりました。保育士と珠算は

あまり関係ないようですが、珠算で身につけた計算力、集中力、忍耐力は保育士の仕事をするうえでも大切な力となり、様々な場面で力を発揮することができています。

練習をしていてもなかなか結果が出ず、悩んでいた頃「読上算」に出会いました。始めは、ゆっくり読まれる数字をよく聞き、入れることで精一杯でした。その読上算の練習を重ねるごとに楽しさを感じ、夢中になり、次々と級を上げ、昇段していきました。いつの間にか大好きになった読上算。数年前に出場した全九州珠算選手権大会で「いつか読上算で三位を取りたい」という気持ちが芽生えていました。それから読上算一筋になり、力をつけるために、両手運指法を取り入れ、毎日練習に励んでいます。昨年、佐賀で開催された全九州珠算選手権大会では「絶対三位を取りたい」という強い気持ちで、挑みました。次々と正解し、夢だった三位入賞を果たすことができました。検定でも七段に合格し、その嬉しさは言葉では表現できないほどでした。現在は、保育士を続けながら、次の目標となる読上算八段合格、九州大会では、二位入賞のために日々練習に取り組んでいます。

私が、これまで珠算を続けてこられたのも珠算を知るきっかけを作ってくれた友達、続けることの道筋を教えてくれた母親がいて先生との出会いがあり今の自分がいます。

私の珠算人生に彩りを添えてくださった方々への感謝の気持ちで溢れています。珠算を始めて二十七年目になりますが、これからも感謝の気持ちを持ち続け、次の夢となる、読上算十段合格を目指して日々努力していきます。